

令和3年度 今泉小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

- ◇基本目標 豊かな人間性を持ち、主体的に判断・行動し、自らの向上と社会の発展を目指してたくましく生きる児童を育成する。
- ◇具体目標
- 1 明るく思いやりのある子（思いやり）
 - 2 自ら考え進んで学ぶ子（創造力）
 - 3 元気で、やりぬく子（体力・気力）
- 合言葉「今泉の子 やさしく かしこく たくましく」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「明るく 楽しく 喜びいっぱい 心のふるさと今泉小」（キャッチフレーズ）の創造
—家庭，地域の信頼と協力の基，誰もが夢や希望を抱き，喜びややりがいをもって生き生きと生活し個々の力を伸長できる，児童，家庭，地域とともに歩む学校—

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 自ら進んで考え，楽しく学び合う人づくり
・学習のねらいをより具体化・明確化する工夫と，地域教育力の積極的な活用
- (2) 当たり前のことが自然にできる人づくり
・縦割り班活動（にこにこ活動）の充実と，地域ぐるみのあいさつ運動
- (3) 自ら健康や体力づくりに励み，たくましく生きる人づくり
・体育授業や体育的行事等の充実と，家庭との連携を図った食育の推進
- (4) 愛情や誇りを感じ，夢や希望のもてる学校づくり
・児童が今泉小のよさを実感し，愛情や誇りのもてる学校経営
- (5) 9年間の学びをつなぎ，地域とともに歩む学校づくり
・地域内小中学校，保護者，地域，団体，企業などとの連携・協力体制の構築
- (6) 教職員がやりがいを持ち，いきいきと勤務できる学校づくり

[泉が丘地域学校園教育ビジョン]

望ましい人間関係をつくり，進んで学び合う児童生徒の育成
～学びの泉 おもいやりの泉 げんきの泉～

4 教育課程編成の方針

公教育の立場から日本国憲法，教育基本法，学校教育法，学校教育法施行規則，学校保健安全法，小学校学習指導要領，とちぎ教育振興ビジョン，宇都宮市学校教育推進計画（うつのみや“いきいき学校”プラン），第2次宇都宮市学校教育スタンダード等の関連法令等に則り，本校の教育目標，学校経営の基本方針を踏まえて編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

- 「地域はみんなの学校」を目指し，地域内小中学校，保護者，地域，団体，企業などとの連携・協力体制を構築し，地域の教育力を生かした教育活動による人づくりに努める。
- ・様々な「ふれあい」と「学び合い」により，たくさんの「よろこび」を味わうことで自信を深め，個々の力を伸長できる学校づくりに努める。
- ・働き方改革の視点から，校内の業務の適正化を目指し，勤務時間を意識した働き方を推進する。

【学 習 指 導】

- 「自ら考え進んで学び合う児童の育成を目指して」
～子ども一人一人が「学ぶ」喜びを味わうこと授業デザインの工夫～

【児童生徒指導】

○家庭・地域・学校園と連携して取り組む安全・安心の学校づくり
 ～人とのつながりを大切にし、自分の成長を意識できる児童をめざして～

【健康（体力・保健・食・安全）】

○児童一人一人が主体的に健康や体力づくりに励み、たくましく生きる人づくり

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価															
目指す児童の姿	<p>A1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 自分の考えを発表できるような場を設けるとともに、自己表現とコミュニケーション能力の向上を目指した授業の工夫をする。</p> <p>② <u>地域学校園で作成した「家庭学習の手引き」</u>を活用して、<u>児童・保護者に家庭学習について啓発する。</u></p> <p>③ 学業指導を充実させ、体験的学習や問題解決学習を積極的に取り入れ学習意欲の向上に努める</p> <p>④ 自主学習を奨励し、家庭学習の習慣化を図るとともに学年・学級及び一人ひとりの実態に合わせた学習に取り組めるようにする。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R3</td> <td>100.0</td> <td>94.5</td> <td></td> <td>95.1</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>97.4</td> <td>95.7</td> <td></td> <td>93.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>・教職員、児童の肯定的回答率が数値指標を達成した。新しい生活様式の中で、できる限りコミュニケーションを図る場面も取り入れるなど、学年に応じて指導の工夫を行った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>①自分の思いや考えを安心して発表し合える場や話合いの形態を工夫し、コミュニケーション能力の向上を図った授業づくりに努める。</p> <p>②<u>地域学校で作成した「家庭学習の手引き」</u>を活用して、<u>継続して児童・保護者に家庭学習について啓発する。</u></p> <p>③体験的学習や問題解決学習を積極的に取り入れ、学習意欲の向上に努める。</p> <p>④引き続き、学年・学級及び一人ひとりの実態に合わせた学習に取り組めるよう基本的な学習習慣の奨励、家庭学習の習慣化を進めていく。</p>		教職員	保護者	地域	児童	R3	100.0	94.5		95.1	R2	97.4	95.7		93.9
		教職員	保護者	地域	児童														
R3	100.0	94.5		95.1															
R2	97.4	95.7		93.9															
<p>A2 児童は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 朝の会や帰りの会で、児童の善い行いを互いに認め、称賛し合う場を設定する。</p> <p>② 道徳科において、自分自身を見つめ人物に共感して自分との関りで考える授業を行う。</p> <p>③ 児童会活動や縦割り班活動をとおして、互いを思いやる心を育む。</p> <p>④ 明確なねらいをもち、幼・保・中・高・地域の人との交流活動に進んで取り組む。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R3</td> <td>100.0</td> <td>94.8</td> <td>93.8</td> <td>95.6</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>94.7</td> <td>91.3</td> <td>100.0</td> <td>93.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>・肯定的回答率が数値指標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>①②③相手の気持ちを考え、行動できるよう、生活場面、学級活動、道徳の時間、児童会活動において、継続的に指導、支援をしていく。</p> <p>④全職員が共通理解のもと、ねらいを明確にして、幼・保・中・高・地域の人との交流活動に取り組む機会を設ける。</p>		教職員	保護者	地域	児童	R3	100.0	94.8	93.8	95.6	R2	94.7	91.3	100.0	93.3	
	教職員	保護者	地域	児童															
R3	100.0	94.8	93.8	95.6															
R2	94.7	91.3	100.0	93.3															

A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活している。
 【数値指標】
 全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」
 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上

- ① 家庭や地域社会との連携を充実させ、「今泉小のあたりまえ」(挨拶・廊下の歩行・次の準備・身だしなみ・言葉遣い)を指針にさらなる学級指導や全体への児童指導を通して規範意識を高める。特に「あいさつ」を重点目標とする。
- ② 「友達アンケート」に「今泉小あたり前五か条」のチェック項目を入れ、振り返りをさせることで意識を高める。
- ③ 毎月の安全点検や安全指導の徹底を図り、児童が安全で快適に生活できるように努める。

【達成状況】

	教職員	保護者	地域	児童
R3	100.0	97.0	100.0	93.0
R2	97.4	94.4	100.0	87.4

・肯定的回答率が数値指標を達成した。新しい生活様式のもと、きまりを意識する場面が増え、守ろうとする意識も高くなっている。

【次年度の方針】

- ①学級指導や全体への児童指導を通して「今泉小のあたりまえ五か条」の定着を図るとともに規範意識を高める。特に挨拶を重点とする。
- ②めあてをもった取組、振り返りを十分に行うとともに、児童の自発的な取組をさらに支援する。
- ③安全点検や安全指導の徹底を図り、児童が安全で快適に生活できるように努める。

A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。
 【数値指標】
 全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」
 ⇒児童・保護者・教職員・地域住民の肯定的回答 80%以上

- ① 教職員が率先垂範に努めるとともに、校内掲示や各種たより、学校ホームページ等により児童・保護者への啓発に努める。
- ② 児童会主体で、あいさつ運動を計画的・継続的に推進する。
- ③ 小中一貫学校園と連携したあいさつ運動の推進を図る。特に、登下校時のあいさつの徹底を図るようにする。
- ④ 「友達アンケート」にチェック項目を入れ、振り返りを行い、児童の自発的なあいさつを促す。
- ⑤ 「親子で考えようあいさつ標語」を募集しあいさつへの関心を高める。

【達成状況】

	教職員	保護者	地域	児童
R3	85.4	80.1	88.2	96.6
R2	86.8	80.8	100.0	91.6

・教職員、保護者の肯定的回答率が、新しい生活様式を守るために、昨年度をより下回ったが、数値指標は達成した。

【次年度の方針】

- ①各種たより等で児童・保護者・地域への啓発に努める。
- ②③児童会主体で、あいさつ運動を計画的・継続的に推進する。(小中一貫学校園と連携)登下校時の挨拶が積極的に行えるように声を掛け、自発的な挨拶を促す。
- ④振り返りを行うことで自分の挨拶について見つめ直す機会を作る。
- ⑤「親子で考えようあいさつ標語」等の取組を行い、あいさつへの関心を高める。

A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。

【数値指標】

全体アンケート「私は夢や希望に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」

⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上

① 根気強く取り組むことの大切さを学んだり、思いや願いを生かした課題を実践したりして、最後までやり遂げられるよう支援するとともに、児童の取り組みの様子を各種たよりや学校ホームページによって家庭・地域に発信する。

② 児童の自己肯定感を高められるように、児童相互に認め合う場を設け、教職員も認め励ます指導に努める。

③ めあてカード、学習カード、ワークシート等の活用により達成感や充実感を味わえるようにし、さらに意欲を高めるようにする。

【達成状況】

	教職員	保護者	地域	児童
R3	100.0	79.5		91.3
R2	97.4	82.2		91.5

・肯定的回答率が教職員と児童は達成したが、保護者はわずかに下回った。

【次年度の方針】

- ①各活動においてめあてを立て、励ましの言葉をかけたり支援したりすることで粘り強さを育成し、振り返りでは達成感を味わえるようにする。また、児童の頑張りの様子を発信したり、家庭で学校での頑張ったことについての話をする場を設ける機会を促したりするなどして家庭と連携し、支援していく環境づくりに努める。
- ②児童相互に認め合う場を設け、教職員も認め励ます指導に努めることで、自己肯定感を高められるようにする。
- ③各種カードを有効に活用し、活動初めと終わりを比べて「できる」ようになったことを明確にすることで、次への意欲につなげられるようにする。

B

A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。

【数値指標】

全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」

⇒教職員・保護者の肯定的回答 85%以上

① 体力の実態を把握し、体育の授業の充実に努める。

② 健康診断の結果を把握し、指導のポイントを明確にし、家庭と連携しながら健康の保持増進に努める。

③ 日常の給食指導とともに「お弁当の日」を親子で食事を考える機会として、子どもたちの食への関心を高める。

④ 避難訓練・交通安全教室等、安全教育をとおして、自分の命を守るための行動力を身に付けられるようにする。

【達成状況】

	教職員	保護者	地域	児童
R3	97.6	94.8	93.3	95.9
R2	97.4	93.5	92.9	92.3

・肯定的回答率が数値指標を達成した。

【次年度の方針】

- ①体力テストや各種検定の結果から体力の実態を把握し、体育の授業の充実に努める。
- ②ほけんだよりや掲示物を通じ、健康に関する情報を発信し、感染症予防の実践を通じ、児童の健康への関心を高める。
- ③日常の給食指導や校内放送による情報の発信、家庭と連携した食育実践を通じ、児童の食への関心を高める。
- ④安全教育を通して、自分の命を守るための行動力を身に付けられるようにする。

B

A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。

【数値指標】

全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」

⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上

① 学級経営を核に「宮未来キャリア教育」の充実に図り、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や勤労意欲、職業観を意図的・計画的に育む。

② 家庭や地域との連携を図り、体験活動や地域の方との交流活動をとおして、自己の成長や変容を自己評価し、社会とのつながりを意識できるようにする。

【達成状況】

	教職員	保護者	地域	児童
R3	100.0	79.5		91.3
R2	97.4	82.2		91.5

・肯定的回答率が教職員と児童は達成したが、保護者はわずかに下回った。

【次年度の方針】

- ①キャリア教育の視点から保護者と情報を共有し、連携した取組を行っていく。
- ②体験活動や交流活動の取組を継続し、児童が自己の成長や変容を自己評価し、社会とのつながりを意識できるようにする。

B

A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。

【数値指標】

全体アンケート「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」

⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上

① 教員が積極的に英語を使うとともに、研修の充実により、授業力の向上を図る。

② 生きた英語に触れる機会の充実を図り、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。

- ・ALTとの交流の場の工夫
- ・学校行事等へのALTの参加

③ 外国語活動に向けた環境整備の推進に努める。

- ・教材等、備品の管理の工夫
- ・校内掲示の工夫

【達成状況】

	教職員	保護者	地域	児童
R3	92.7			92.0
R2	92.1			90.6

・昨年よりも、英語を使ったコミュニケーション活動やALTとの交流の場を多く設定できた。肯定的回答率は、数値指標より上回った。

【次年度の方針】

① 授業者の外国語指導能力の向上を図るとともに、ALTを活用した英語による学習活動を中心とした授業を行う。

② 目的に応じた場の設定の工夫を行う。

③ 教材・教具の工夫、児童の実態に合わせた明確な板書計画等、分かりやすい英語授業の環境づくりに努める。

A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。

【数値指標】

全体アンケート「私は、宇都宮のよさを知っている。」

⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上

① 生活科や社会科の地域を学ぶ学習をとおして郷土への愛情と誇りをもてるようにする。

② 特別活動（学校行事等）における体験的な学習の場を設定し、興味関心を高める。

③ 宇都宮の伝統文化、行事や催しを知る機会を設け啓発を行う。

【達成状況】

	教職員	保護者	地域	児童
R3	82.9	75.4		86.1
R2	78.9	72.0		84.6

・教職員、児童の肯定的回答率は、数値指標を上回っているが保護者の回答は下回っている。

【次年度の方針】

① 地域を学ぶ学習をとおして郷土への愛情と誇りをもてるようにするとともに、保護者に児童の様子を発信していく。(HP・学級懇談・授業参観など)

②③「宇都宮学」において充実した指導ができるように研修を深める。また、宇都宮の伝統文化を学ぶなど、特別活動(学校行事等)における体験的な学習の場を増やす。

A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。

【数値指標】

全体アンケート「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」

⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上

① 各教科等の学習において、情報の収集、選択にパソコンを活用するなどして主体的な学習を推進する。

② ICT機器の授業における活用法など、研修等をとおして教員の指導力向上を図る。

③ 図書館利用の仕方や機器の使用について発達段階に応じた指導を継続的に行う。

【達成状況】

	教職員	保護者	地域	児童
R3	100.0	86.9		95.1
R2	97.4	77.6		93.1

・教職員、児童の肯定的回答率は、数値指標を上回った。保護者も昨年より上回った。

【次年度の方針】

① 個人用パソコン、図書館の活用を促進し、児童が効果的に情報を収集できるような能力を高めていく。

② GIGAスクール構想を理解し、研修等をとおして教員の指導力向上を図る。

③ 情報主任、図書主任、図書館司書と連携しながら、図書館利用の仕方や機器の使用について発達段階に応じた指導を継続的に行う。

	<p>A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 昔遊びや戦争体験講話等、高齢者の協力を得た教育活動を行い、高齢者から学ぶ機会を設ける。</p> <p>② 学校行事に招待したり、地域の活動に参加したりすることで高齢者との交流を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1034 159 1485 282"> <thead> <tr> <th></th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R3</td> <td>100.0</td> <td>94.8</td> <td>93.8</td> <td>95.6</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>94.7</td> <td>91.3</td> <td>100.0</td> <td>93.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>・肯定的回答率は数値目標を達成した。保護者の肯定的割合も上昇した。本年度は交流活動は制限されたが、他を思いやる心情の育成に努めた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>①敬老会、運動会、昔遊び、戦後体験の講話など高齢者の協力を得た教育活動を行い、高齢者から学ぶ機会を設ける。</p> <p>②高齢者を学校行事に招待したり、児童に地域の活動への参加を奨励したりすることで、高齢者と関わる機会をもてるようにする。</p>		教職員	保護者	地域	児童	R3	100.0	94.8	93.8	95.6	R2	94.7	91.3	100.0	93.3
	教職員	保護者	地域	児童														
R3	100.0	94.8	93.8	95.6														
R2	94.7	91.3	100.0	93.3														
	<p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 読書活動において、環境やエネルギー、防災などの書籍を紹介し、日常生活と地球の課題の関連に気付く機会をもつ。</p> <p>② 委員会活動や各教科において省エネ運動、リサイクル活動に取り組み、環境問題についての関心を高める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1034 701 1485 824"> <thead> <tr> <th></th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R3</td> <td>75.6</td> <td></td> <td></td> <td>89.6</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>71.1</td> <td></td> <td></td> <td>85.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童の肯定的回答率は、数値目標を達成したが、教職員は下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>①各教科指導、読書活動において、環境やエネルギー、防災などの書籍を紹介し、日常生活と地球の課題の関連に気付く機会をもつ。継続して指導していくことで、児童の実践力を高めていく。</p> <p>②委員会活動、学級活動、各教科での指導等において具体的な取組の実践化を図る。</p>		教職員	保護者	地域	児童	R3	75.6			89.6	R2	71.1			85.1
	教職員	保護者	地域	児童														
R3	75.6			89.6														
R2	71.1			85.1														
<p>目指す学校の</p>	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 児童の実態を把握するとともに保護者と情報交換しながら適切な支援を行う。</p> <p>② 情報交換会を定期的に行うとともにケース会議を活用し、情報共有と支援方針の共通理解を図る。</p> <p>③ 特別支援教育コーディネーターや日本語担当指導教員を中心に研修を行うとともに個別支援計画に基づいた支援機能の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1034 1209 1485 1332"> <thead> <tr> <th></th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R3</td> <td>100.0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>97.4</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・肯定的回答率は、数値目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>①保護者と情報交換をし、児童の実態把握をした上で、教職員相互が連携し協力した支援の取組ができるようにする。</p> <p>②ケース会議等を十分活用し、情報共有と支援方針の共通理解に努める。</p> <p>③個別の支援計画に基づいた支援機能の充実を図る。</p>		教職員	保護者	地域	児童	R3	100.0				R2	97.4			
	教職員	保護者	地域	児童														
R3	100.0																	
R2	97.4																	

<p>姿</p>	<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 「今泉小学校いじめ防止基本方針」のもと、いじめの早期発見・早期対応や全校体制での支援に努める。また、実際に行っているいじめ対策をより積極的に公表するよう努める。</p> <p>② 学年だより・児童指導だより等に「友達アンケート」についての記載をして、啓発に努める。</p> <p>③ 各教科・道徳・学級活動・日常生活の指導をとおり、いじめを許さない児童の育成に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1034 159 1485 282"> <thead> <tr> <th></th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R3</td> <td>100.0</td> <td>85.9</td> <td>100.0</td> <td>98.5</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>94.7</td> <td>82.8</td> <td>100.0</td> <td>97.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童の肯定的回答率は、数値指標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>①児童一人一人の日々の様子を十分に見取るとともに、「今泉小学校いじめ防止基本方針」のもと、いじめの早期発見・早期対応や全校体制での支援に努める。</p> <p>②各種便り、懇談会等で、学校での取り組みを保護者に丁寧に説明していく。</p> <p>③各教科・道徳・学級活動や日常生活では「あたりまえ五か条」を中心とした指導を継続して、いじめを許さない児童の育成に努める。</p>		教職員	保護者	地域	児童	R3	100.0	85.9	100.0	98.5	R2	94.7	82.8	100.0	97.4
	教職員	保護者	地域	児童														
R3	100.0	85.9	100.0	98.5														
R2	94.7	82.8	100.0	97.4														
	<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくださっている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 一人一人の良さを認め、励ますような温かい雰囲気のある学級づくりに努める。</p> <p>② 児童同士がともにかかわり合いをもつ、望ましい人間関係の醸成に努める。</p> <p>③ 児童が主体的に活動する場面や、活躍できる場面を設定する。</p> <p>④ 欠席状況共有シートや日々の様子の記録等を活用した情報共有を推進し、共通理解に基づいた組織的計画的な支援を推進する。</p>	<p>【【達成状況】】</p> <table border="1" data-bbox="1034 748 1485 871"> <thead> <tr> <th></th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R3</td> <td>97.6</td> <td>89.9</td> <td></td> <td>97.4</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>94.7</td> <td>91.9</td> <td></td> <td>96.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童の肯定的回答率は、数値指標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>①児童のよさが認められ活躍できる場を増やし、自己肯定感を育む。</p> <p>②新しい生活様式の中ではあるが、望ましい人間関係作りのためにあたたかな雰囲気作りや主体的に活動できる場の設定を工夫していく。</p> <p>③教職員共通理解のもと、個に応じた支援をする。全校体制で児童や保護者に寄り添った支援に努める。</p>		教職員	保護者	地域	児童	R3	97.6	89.9		97.4	R2	94.7	91.9		96.4
	教職員	保護者	地域	児童														
R3	97.6	89.9		97.4														
R2	94.7	91.9		96.4														
	<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 学級担任、日本語指導担当教員、全教職員が連携し、共通理解を図って支援する。</p> <p>② 母語指導者、日本語ボランティアと連携し、児童・保護者への指導、支援を行う。</p> <p>③ 個性を認め合う受容的で温かな学級づくりに努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1034 1294 1485 1417"> <thead> <tr> <th></th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R3</td> <td>100.0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>97.4</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・肯定的回答率は、数値目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>①全職員が連携し、情報交換をしながら全校体制で共通理解を図って支援する。</p> <p>②母語指導者、日本語ボランティアと連携し、児童・保護者への指導支援を行う。</p> <p>③継続して、個性を認め合う受容的で暖かな学級づくりに努める。</p>		教職員	保護者	地域	児童	R3	100.0				R2	97.4			
	教職員	保護者	地域	児童														
R3	100.0																	
R2	97.4																	

A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。

【数値指標】

全体アンケート「私は今の学校が好きです。」

⇒児童の肯定的回答
90%以上

- ① 縦割り班活動を充実させ、集会活動、「仲良しタイム共遊」など、いきいきと活動できるように努める。
- ② 異学年交流による縦割り班清掃活動等、協力したり助け合ったりする活動の充実に努める。
- ③ 発達の段階に応じた係活動や委員会活動、行事をととして学校への帰属意識を高めるようにする。

【達成状況】

	教職員	保護者	地域	児童
R3	92.7	92.9	100.0	93.7
R2	94.7	93.9	100.0	92.1

・児童の肯定的回答率は、数値指標を達成した。感染防止対策をとりながら、実施内容や方法を工夫して活動を進めることができた。児童の数値が上がったのは、コロナ禍でも工夫して活動する機会が増えたからだと考える。

【次年度の方針】

- ①密を避けながら、主体的に活動できる場や方法を工夫していく。
- ②縦割り清掃については安全対策を講じながら、できる範囲での取組を行っていく。
- ③全職員が共通理解のもと、情報を共有し、さらに自己存在感のもてる学校づくりに努める。

B

A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。

【数値指標】

全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」

⇒児童の肯定的回答
90%以上

- ① 校内研修等で、授業を互いに公開し、互いに高め合いながら授業力の向上に努める。
- ② ねらいを明確にした分かりやすいきめ細かな授業を工夫し、基礎・基本の定着を図る。
- ③ 授業の展開や学習形態を工夫しながら、自分の思いや考えを表現、互いに学び合う学習を推進する。
- ④ TT による指導や少人数による習熟度別学習を充実させ、個に応じたきめ細かな指導に努める。
- ⑤ 今泉人材バンクや地域の施設を活用した体験的な学習を推進する。

【達成状況】

	教職員	保護者	地域	児童
R3	100.0	81.4		98.3
R2	94.7	85.4		97.9

・肯定的回答率は、数値目標を達成した。

【次年度の方針】

- ①校内研修の内容・方法の共通理解を深め、互いに高め合いながら授業力の向上に努める。
- ②ねらいを明確にした分かりやすいきめ細やかな授業を工夫し、基礎・基本の徹底を図る。また、校内研修を通し、児童にとって分かりやすい授業の流れを構築する。
- ③学習形態を工夫しながら、自分の思いや考えを表現し合い、互いに学び合う学習を推進する。
- ④指導法や指導の形態の工夫、さらには児童を見取る力の向上を図り、個に応じたきめ細かな指導に努める。
- ⑤今泉人材バンクや地域の施設を有効に活用した体験的な学習を推進する。

B

A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。

【数値指標】

全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」

⇒教職員の肯定的回答

85%以上

① 学年主任や各教科・領域等主任の組織的な連携を図るために、学校内外のコミュニケーション環境の整備に努める。

- ・管理職（副校長）による総合的な連絡調整の実施
- ・業務担当教員との綿密な打ち合わせの実施
- ・各スタッフによる関係職員への積極的な情報提供の推進

② 職員会議や打合せの機会を活用し、専門スタッフとの情報交換を密にする。

【達成状況】

	教職員	保護者	地域	児童
R3	82.9			
R2	92.1			

・肯定的回答率が、数値指標を3ポイント下回った。

原因として、校務分掌により業務の負担感が異なることや経験年数の浅い職員が増えたこと、さらに新型コロナウイルス感染症対応による業務増等でチームとして支え合う余裕が失われていることが考えられる。

【次年度の方針】

- ①職員相互の業務内容を理解・精査し、個人に過剰な負担差が生じないように、コミュニケーションを図って、協力し合える体制づくりに努める。
- ②専門スタッフとの情報交換を密にし、業務の精選をはかり、協力体制をより横断的に構築していく。

A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。

【数値指標】

全体アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」

⇒教職員の肯定的回答

80%以上

① 業務の精選・見直しなど行い、校務分掌に位置づける。

② 教職員の勤務時間・勤務状況を意識し合い、他の教職員の業務支援を適切に行うなど、業務負担の軽減、分散化を図る。

③ 「リフレッシュデー」を設定し、定時退勤を推進し、教職員の意識付けを図るとともに、互いに声を掛け合い勤務時間を意識できる雰囲気づくりに努める。

【達成状況】

	教職員	保護者	地域	児童
R3	78.0			
R2	86.8			

・肯定的回答率は、数値指標を下回った。今年度から導入された個人用パソコンの有効な活用法についての研究・研修の時間が新たに必要となり、全体的に業務時間が長くなったためと考えられる。

【次年度の方針】

- ①②本年度の業務の振り返り、分析を行い、業務内容や分掌の見直し、効率化を図る。また、他の教職員の業務支援を適切に行うなど、業務負担の軽減、分散化を組織的に図る。
- ③教職員が互いに声を掛け、業務を分担し合うなど勤務時間を意識して働けるような雰囲気づくりを行う。

A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。

【数値指標】

全体アンケート「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。」
⇒児童の肯定的回答 80%以上

- ① 地域学校園共同開催行事を計画的・継続的に実施し中学生との交流を深める。
- ② 小中合同のあいさつ運動や中学校訪問の機会をとおして、児童生徒の交流と相互理解を推進する。
- ③ 「地域学校園・小中一貫教育」の取組を各種便り等で、家庭・地域に発信していく。

【達成状況】

	教職員	保護者	地域	児童
R3	87.8	74.9	93.8	54.5
R2	89.2	78.3	100.0	64.0

・児童の肯定的回答率は、数値指標を下回っているが、宮っ子チャレンジや小中合同清掃など担当学年については交流を持つことができた。また、小中合同あいさつ運動を実施し、全学年と関わることができた。

【次年度の方針】

- ①実施内容や時期・方法などを工夫しながら、中学生との交流を深められる活動を推進していく。
- ②小中一貫のあいさつ運動や小中合同清掃など中学生との活動をとおして、さらに交流を深められるようにする。
- ③学校として各種便り等を活用し、取組を積極的に発信していく。

B

A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。

【数値指標】

全体アンケート「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」
⇒児童の肯定的回答 85%以上

- ① 地域の教育力を積極的に活用し、地域と連携した特色ある教育活動を推進する。
- ② 地域協議会・地域学校協働活動推進員等と連携し、地域人材や地域資料を有効活用した教育活動を推進する。また、保護者にもさらにボランティア等の協力を仰ぎ、学校と家庭との連携も強めていく。

【達成状況】

	教職員	保護者	地域	児童
R3	90.2	82.2	100.0	85.4
R2	94.7	87.4	100.0	83.6

・児童の肯定的回答率は、数値指標をわずかに上回った。感染症対策を十分に講じた上で多くの行事・活動を実施した。

【次年度の方針】

- ①家庭や地域への情報発信にさらに力を入れ、相互理解を図りながら連携した取組ができるようにする。
- ②実施内容や方法を工夫しながら、地域の教育力を取り入れた取組を継続し、情報交換していくことで連携を図った活動を実践する。

B

A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。

【数値指標】

全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」

⇒教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 85%以上

① 今泉小地域協議会、今泉地区コミュニティセンターと連携し、地域の学校づくりを積極的に推進するとともに、学校運営の充実を図る。

② 学校公開や各種通知、学校ホームページ等を活用し、情報の積極的な発信を行い、家庭・地域・企業等との連携・協力を推進する。

③ 泉が丘地域学校園との連携・協力をより一層推進し、望ましい人間関係をつくり、進んで学び合う児童の育成に取り組む。

【達成状況】

	教職員	保護者	地域	児童
R3	90.2	82.2	100.0	85.4
R2	94.7	87.4	100.0	83.6

・保護者の肯定的回答率は、数値指標を達成できなかった。新型コロナウイルス感染症対策のため、行事・活動の多くが中止・変更になったためと思われる。

【次年度の方針】

①地域協議会、今泉地区コミュニティセンターと連携し、地域の各種団体や学校支援ボランティアの支援を得た取組を継続し、地域の教育力を生かした教育活動を推進する。

②家庭や地域へ情報発信することで、相互理解を図り、さらに連携を図った取組ができるようにする。

③泉が丘地域学校園教育ビジョンである「望ましい人間関係をつくり、進んで学び合う児童生徒の育成」に向けて、情報交換を密にして、連携して取り組むようにする。

B

A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。

【数値指標】

全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」

⇒保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上

① 教職員の危機管理意識を高め、施設・設備、器具・用具等の定期的な安全点検の実施に取り組む。
(定期点検 臨時点検 日常点検)

② 行政担当課や機動班等と迅速に情報を共有し、施設等の維持管理や改善に努める。

【達成状況】

	教職員	保護者	地域	児童
R3	95.1	88.6	100.0	
R2	94.7	89.4	100.0	

・肯定的回答率は、数値指標を上回った。

【次年度の方針】

①さらに、教職員の危機管理意識を高め、施設・設備、器具・用具等の安全点検の実施に取り組む。

②行政担当課や機動班等と迅速に情報を共有し、施設等の維持管理や改善に努める。

B

A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。

【数値指標】

全体アンケート「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」

⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上

① 情報主任や学校図書館司書と連携し、学習に必要な教材・教具、図書の充実を図る。

② 市立図書館と連携した希望図書の有効活用を図ったり、ICT機器の有効な活用法について研修を深めたりする。

【達成状況】

	教職員	保護者	地域	児童
R3	100.0	86.9		95.1
R2	97.4	77.6		93.1

・教職員・児童の肯定的回答率は、数値指標を上回った。保護者も昨年より上回った。

【次年度の方針】

①学習や活動での有効な活用について情報を収集するとともに、情報主任、学校図書館司書と連携し、学習に必要な教材・教具、図書の充実を図る。

②市立図書館と連携した希望図書の有効活用を図ったり、ICT機器の有効な活用法について研修を深めたりして、学習活動に生かす。また、児童の活動や取組の様子を情報発信していく。

B

本 校 の 特 色 ・ 課 題 等	B1 児童は、学校のよさを実感し、自校への愛情や誇りをもっている。 【数値目標】 全体アンケート「私は、学校のよいところや自慢できることを知っている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 共に生きる力を育てる活動の充実を図る。 ・縦割り班活動 (なかよし班活動 縦割り清掃) ・特別支援学級と通常の学級との交流 ・体験活動の充実 ② 自他の違いを理解し、尊重し合い支え合う望ましい学級集団づくりを目指す活動の充実を図る。 ③ 望ましい食習慣の定着を図る。 ・栄養士による授業 ・各たより発行による啓発と家庭との連携 ・お弁当の日の活用 ④ 地域の教育力を積極的に活用し連携を図る。 ・地域の団体・施設と連携した教育活動 ・防災訓練や下校時の見守り	【達成状況】 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R3</td> <td>95.1</td> <td>87.0</td> <td>100.0</td> <td>85.5</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>94.7</td> <td>90.2</td> <td>100.0</td> <td>85.2</td> </tr> </tbody> </table> ・肯定的回答率は、数値指標を上回った。 【次年度の方針】 ①特別支援学級と通常の学級との交流及び共同学習を含め、本校ならではの活動、取組のよさを明確にして、より充実感が味わえるよう工夫していく。 ②帰属意識のある望ましい学級集団づくりを目指す活動の充実を図る。 ③望ましい食生活を図るための各種取組を推進し、さらに健康な体づくりのための指導の実施していく。 ④学校、家庭、地域の連携を図った取組を推進し、情報を発信していく。		教職員	保護者	地域	児童	R3	95.1	87.0	100.0	85.5	R2	94.7	90.2	100.0	85.2
		教職員	保護者	地域	児童													
R3	95.1	87.0	100.0	85.5														
R2	94.7	90.2	100.0	85.2														
		B																

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営について】

A17 「学校は活気があり、明るいきいきとした雰囲気である」教職員・保護者・地域・児童の肯定的割合 90%以上

B1 「児童は学校に愛着や誇りをもって学校生活を送っている」教職員・地域の肯定的割合 90%以上 保護者・児童は 90%には届かなかったが、85%以上ではあった。

- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、内容や方法を工夫して各教育活動を実施することができた。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、行事・活動を始め、多くの取組が内容の変更、あるいは中止を余儀なくされた。本年度も児童の安心・安全な学校生活を主眼に学校運営を行ってきたが、今後も十分に配慮しつつ、主体的、体験的な活動をどう取り入れていくか検討し、状況に応じて対応していく必要がある。

【学習指導について】

A1 「児童は進んで学習に取り組んでいる」教職員・保護者・児童の肯定的割合 90%以上

A10 「児童はICT 機器や図書等を学習に活用している」教職員・児童の肯定的割合 90%以上 保護者は90%には届かず86.9%だったが、昨年度より9.3%上昇した。

- ・新しい生活様式のもと、できる限り、自己表現やコミュニケーションを図る場を設定しつつ、学年に応じて指導の工夫を行った。
- ・GIGA スクール構想を理解し、研修等を通して、個人用パソコンを活用した学習指導の方法等、教員の指導力向上を図ってきた。また、情報主任、図書主任、図書館司書と連携しながら、図書館利用の仕方や機器の使用について発達段階に応じた指導を継続的に行った。
- ・新型コロナウイルス感染症対策のため、学習指導の在り方について、共通理解を図りながら全校体制で取り組むことができた。次年度も引き続き、校務分掌の主任や学年主任を中心として、主体的・対話的で深い学びの実現を図りたい。

【児童指導について】

A2 「児童は思いやりの心をもっている」教職員・保護者・地域・児童の肯定的割合 90%以上

A15 「教職員は不登校を生まない学級経営を行っている」教職員・児童の肯定的割合 90%以上、保護者は89.9%であった。

- ・新しい生活様式の中、児童同士の交流、地域の教育力の活用を十分に行うことができなかったが、他者を思いやり、譲り合ったり、周りに配慮したりする姿が多く見られた。
- ・児童は決まりを守って落ち着いた生活ができた。引き続き、教職員も児童一人一人の動向や変化を見取り、個々に丁寧に対応していきたい。

【健康・体力について】

A6 「児童は健康や安全に気を付けて生活している」教職員・保護者・地域・児童の肯定的割合 90%以上

- ・3つの密の回避、マスクの着用、手洗いの励行、体調管理等、衛生面の配慮・感染防止対策を意識して行動することができた。引き続き、健康に配慮した生活を継続させたい。
- ・感染症対策をとった体育の授業について教職員で検討を重ね、工夫して実践してきた。今後も、引き続き体力向上に向けて全校体制で取り組んでいきたい。

7 学校関係者評価

- ・保護者の肯定的割合が全体的に増えていて、学校の取組みが保護者に理解されていると感じる。コロナ禍においても、達成状況が上回っているところが多く、素晴らしいと思う。
- ・自主学习が定着しつつあるのは、教職員と保護者の連携、協力の成果だと思う。
- ・今年度もコロナ禍で大変な一年だったが、学校の感染症対策は素晴らしかった。また、学習指導や生活指導等、児童一人一人に向き合い、熱意をもって指導に取り組んでいる姿勢を感じた。
- ・各種行事の参観の機会は少なかったが、各種便り、HP等、学校からの発信で状況をよく理解することができた。
- ・A23 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」について、地域の肯定的割合は100%だが、教職員・保護者・児童が100%でないことが残念である。コロナ禍のため、行事の中止等があり仕方がないのかもしれないが、地域は今後も全力で協力していきたいと思う。
- ・交流活動が少ないので、体験的な学習を多く取り入れて、実感や感動を味わってほしい。
- ・数多い評価項目を全て満足させるのは難しく、教職員・保護者・地域が三位一体になって取り組んで行かなければ解決しない項目も多い。特に郷土愛の醸成等は、高齢知育住民の活用が求められる。
- ・今後、戦争体験講話をする高齢者が少なくなっていくので、ビデオ等に記録。保存していく必要があると思う。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・教職員の教育活動や児童の様子等について概ね肯定的な評価を得ることができ、ほとんどの項目で数値指標を上回ることができた。学校の自己評価や保護者・児童・地域協議会からの評価、意見を基に次年度の計画について検討していきたい。
- ・学校の教育活動や児童の様子において、四者の肯定的割合に差が大きい項目も存在する。今後も地域や保護者の思いや願いに十分に耳を傾け連携した取組を進めるとともに、学校での取組、児童の様子を家庭や地域へ情報発信することで相互理解を図るようにする。
- ・学習指導については、今年度の成果と各種調査の結果を踏まえて、児童の実態に応じた工夫改善を行うことにより、一人一人が学ぶことの本質的な楽しさを実感し、学びに向かう態度を身に付けられるよう、研究を進めていく。また、ICT 機器を効果的活用しながら、児童が互いのよさを認め合い、共に学び合う授業展開を工夫していく。
- ・児童指導については、「今泉小学校あたりまえ五か条」を積極的に推進・徹底することで、基本的な生活習慣の育成と規範意識の醸成を図っていく。また、教職員が組織的に対応するとともに、家庭や地域、関係機関と連携・協力しながら、取り組んでいく。
- ・健康（体力・保健・食・安全）については、児童が自ら健康を保持増進するために、主体的に考え、判断し、行動することができるよう指導の工夫改善をしていく。その中で、困難さへのチャレンジや苦手なことの克服等、自己肯定感やたくましい心の育成につながる活動を重視していく。
- ・次年度も、学校における新型コロナウイルス感染症拡大防止対策での「新しい生活様式」のもと、児童の健康・安全を確保し、かつ教育効果を上げる行事・活動を行うために検討・工夫を行い、現状を踏まえながらより充実した学校教育を実践できるようにしていきたい。